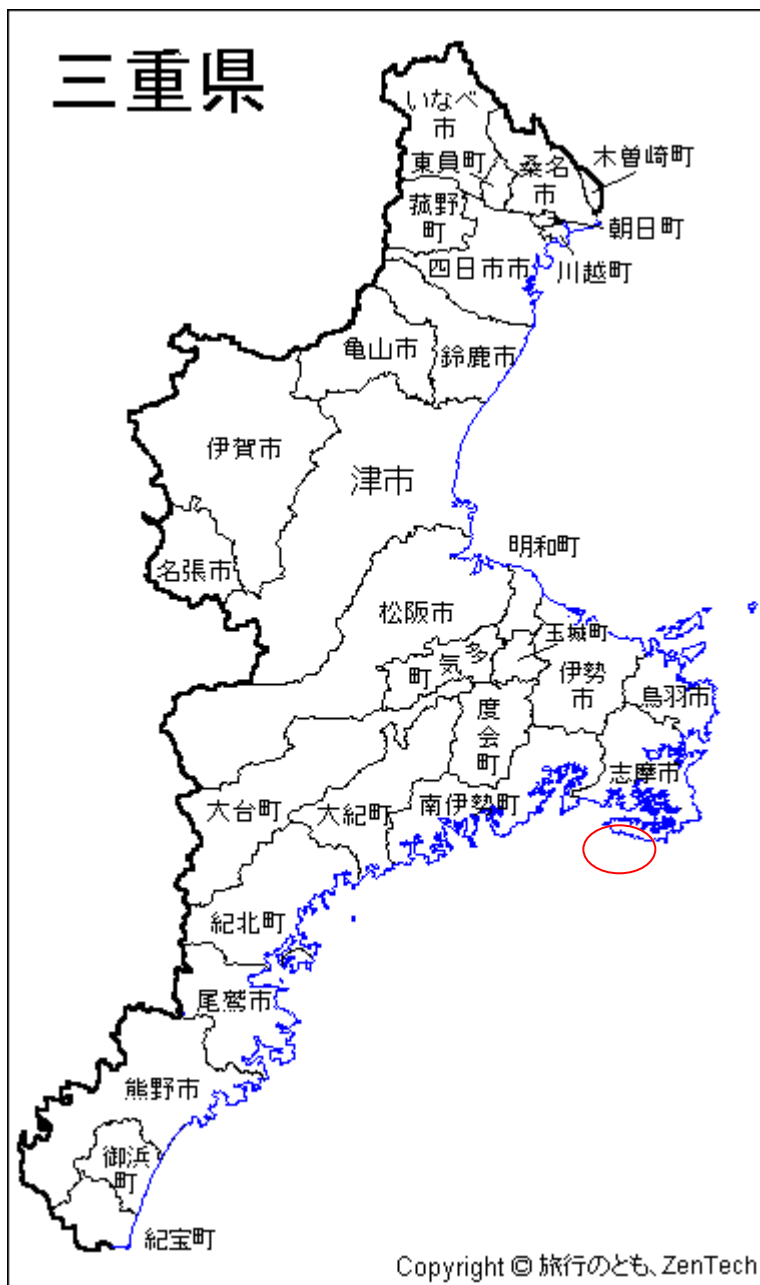


## 避難場所はどこ？



三重県志摩市立浜島小学校 田畑 美代子  
三重県歴史教育者協議会 志摩支部

3月11日

防災無線が津波警報を知らせるまで、何も知らずに普段どおりの職員室でした。「津波警報が出ている」と言われてもびんときません。子どもたちは殆ど下校し、一部の子どもたちが学校に残っているだけでした。津波警報が、大津波警報となり、残っていた子どもたちを学校に待機させて、保護者の迎えを待つことになりました。また、下校させた子どもたちについては、戸外で遊んでいないか、特に海岸の近くにいないか確認のため、校区を見回ることになりました。職員の中で、海岸に近いところに家がある者が、家に電話をかけ海の様子を確かめました。海は、いつもと変わらないということで、幾人かで手分けして、校外の見回りに出かけました。数分で全員が帰り、その頃からぼつぼつと保護者が、子どもを迎えにきました。3時半ごろだったと思います。職員の中にも、子どもを迎えに行かなければならない者がいて、帰れる時に帰るようにと学校長から指示がありました。保護者対応をするものが残り、職員も順に帰りました。そのころ、まだ危機感はありませんでした。ところが、近くの福祉施設から、職員に付き添われて、体の不自由なお年寄りの方々が避難場所である学校にやってきてから、なにかしら、いつもと違う雰囲気になりました。5時過ぎに最後の子どもが帰ってから、私も家に帰りました。学校には、校長と教頭、市職員の校務員さんが残りました。

家に帰ると、すでに子どもも夫も帰っていました。そしてめずらしく、テレビがついていました。志摩一帯は、大津波警報が出されたままです。

津波が街を破壊していく様子が映し出されました。「東北で大変なことが起こっている。」まだ何があったのか、よくわかりません。週末、大津波警報が出ているため、子どももクラブ中止で家にいて、家族全員がテレビを見て過ごしていました。テレビの映像は、フィクションの世界のようでした。新聞報道やテレビのニュースを見ても、まだ信じられません。阪神・淡路大震災のときは、私の家もずいぶん揺れたし、西宮に住む叔父と連絡が取れなくて、みんなが心配したのですが、今回はまだ遠いところでの出来事でした。

志摩は、津波が来たものの、被害は海の中だけで済みました。(のり・真珠・かき・鯛などの養殖業者さんの被害はかなりでした) 週明けからは、通常の生活が戻ってきました。

2011年度

股関節の人工骨置換手術を受けることが決まっていたので、担任をはずれ、3・4年生の副担任として、3・4年生だけに関わる専科となりました。図工、書写、社会、総合、3年生算数を担当。両方の学年に支援学級に在籍する子どもがいるので、授業は常に複数の担当者がいて、TT授業のT1を常にやっていると想像してください。「避難場所はどこ？」は、社会科の授業で実践したことです。

避難場所はどこ

遠いところでの出来事が、自分にとっても関わりのあることなのだと感じ出したのは、被害者の方の中に、「阿部」という名前を見つけてからでした。2年前に担任した子どもが、石巻にルーツを持つ子で、「阿部」といいました。また、福島原発事故でチェルノブイリの事故を思い出しました。当時育児休業中で、離乳食を食べ始めたばかりの娘に食べさせるものに悩んだこと、雨が降るとぬれないように気をつけたことなど思い出し、東北のことが自分にも関係のあることとして考えられるようになりました。

手術とりハビリの後、2学期の半ばから職場復帰しました。PTAの有志が「防災マップ」を作っていました。しかし、子どもたちにとっては、地震も津波も自分たちに関係が無いことのように思えました。

子どもたちの意識を少しでも変えたいと思い、「避難場所はどこ？」という授業を計画しました。

#### 4年生社会科学習 「避難場所はどこ？」

##### 目標

- ・消防署で働く人たちによって、私たちの安全な生活が支えられていることを知る。
- ・消火活動や、救急活動の仕組みを知り、迅速な対応のために、働く人々が工夫していることに気付く。
- ・安全な生活を支えてくれている人々に感謝するとともに、自分たちにできる防災活動を考え、実践しようとする。

##### 計画（全15）

- 学校の消火設備を調べよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 消防署を見学しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 消防署で働く人の仕事について調べよう・・・・・・・・・・ 3
- 150年前の地震と津波について調べよう・・・・・・・・・・ 6
  - 磯部郷土資料館の見学（先人に学ぶ地震と大津波）
  - 南張の堤防を築いた市兵衛さん
- 避難場所を確かめよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - 防災マップの説明を聞く
  - 自分の避難場所を地図上で探し、避難経路を作文する（本時）

##### 本時の目標

- ・家にいるときに、地震があった時に、どこに逃げるのかを確かめ、行動の仕方をシミュレーションする。
- ・発表を聞いて、どこに避難場所があるのかを知る。

##### 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点
・防災マップを見て、自分の家や近くの避難場所を探す。	・防災マップを黒板に張り、自分の家がある地図を探させる。 ・地区ごとに分かれて、自分の家や近くの避難場所を探させる。 ・校区たんけんの経験を生かし、互いに教えあって探させる。 ・地図に名札をはって、避難場所を確かめる。
・避難経路について、作文に書かせる。	・作文用紙に、自分の家で地震が起きたときに、どのように行動するのか、書かせる。 ・初期避難から、避難場所に行くまでの行動を想像して、書かせるようにする。 ・条件としては、一人で家にいるものとする。 ・海や川、低いところになるべく近づかないで逃げる経路を考えさせる。 ・同じ地区の子と相談してもよいこととする。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を発表して聞き合い、感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を聞きながら、気付いたことを発表するようにさせる。地区別に、各一人は発表するようにさせる。</li> <li>・よりよい経路があれば、感想のときに言わせるようにする。</li> </ul>
---	--

## 子どもの作文

- ・地震があって家が揺れたら、まず机の下にもぐって、揺れがおさまるのを待つ。地震がおさまったら、昔の小学校の方にある坂を上って行って、にげる。そのときに、自分だけで逃げず、家族や一人ぼっちでいる子を一緒に連れて行ってあげる。

(意見) 一人でいる子がいたら、一緒ににげるのはいいけど、家族は、一緒にいたらいいけど、今は、家に一人でいるときやから、家族が来るのをまっていたらいいかんと思う。

- ・地震がおこったら、何も持たないで、紫光に、走って逃げる。

(意見) 紫光は、海に近いから、家の後ろの山の方が、安全なんとちがうかなあ。

- ・じしんがあったら、家の中では、テーブルの下に隠れる。一番近い避難場所は、役場だから、役場に逃げる。でも、時間があつたら、前の小学校まで逃げる。

(意見) 前の小学校のほうがいいと思う。時間は、そんなにかわらへんし、前の小学校のところなら、山を通過して、ファミリーマートのところまで行けるから、がんばって小学校まで逃げてください。

- ・僕の家の方のところにいるおばあさんやおじいさんを助けながら、家の山のにげる。津波が来たら、もっと上に逃げて、こっちゃん(妹)やおばあちゃんを助ける。ぼくのおじいちゃんやおばあちゃんも、お姉ちゃんや弟と一緒に助ける。

(意見) すぐ裏が山だから、にげやすいと思うけど、山が崩れていたら、たいへんだと思う。そのときは、前の小学校に逃げてください。

- ・桧山路の避難所は、川のむこうがわにあるので、自分の家にいたら、家の前の坂を上って行って、できるだけ高いところへ行く。安全になったら、避難所に行く。

- ・地震が来たら、高いところへ逃げる。欲を出さずに、逃げる。まず、机の下とかに逃げて、ゆれがおさまったら、避難所に行く。桧山路の避難場所は、家のすぐ近くにあるので、すぐ行けます。

(質問) 桧山路の避難場所まで津波が来たら、どうするんですか。

- ・桧山路の避難場所から南張に続く道が近くにあつて、そこは高いから、そこに逃げます。(古文書で市兵衛さんが通った道)

- ・南張は、徳林寺に逃げる。

(質問) 徳林寺まで、遠くないですか。

もうダッシュで行ったら、家から5分くらいでいける。ゲームとか何ももたんと、もうダッシュする。

- ・迫子は、川があるから、川の方には、逃げない。

(意見) Aちゃんの家、川のすぐ近く。公民館へ行くのに、橋を渡らないかん。

(意見) 家の裏に、山へ行く道があるから、そこに行った方がいい。

おばあちゃんと相談してみる。

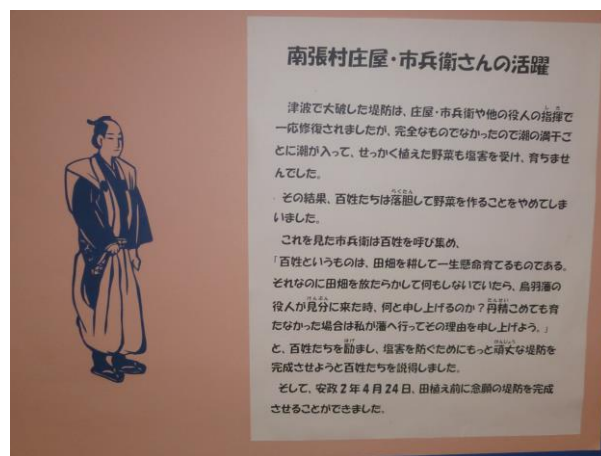
(後日、近くにいる人の言うことをよく聞いて逃げるということを話してくれた。Aさんならできる。)

## 考察

地震も津波も、いつ起こってもおかしくないといわれながら、のんきに過ごしていた私たちの意識が3月11日以降変わってきています。以前は、防災訓練に参加する人も少なく、津波警報が出て避難する人がいませんでした。実際、私たちも津波警報が出ている中、校区の見回りをして、浜島では安全だといわれている小学校を出て、わざわざ海の近くへ行っていました。そしてその後、150年前にあった地震のことを知り、地震や津波が自分の身の上で起こることなのだとということが分かってきました。子どもたちも同じで、3月11日の地震も、東北で起こったことで、自分たちには遠いものでした。せっかくPTAの有志が作ってくれた防災マップも、話を聞くだけになりそうでした。

消防署の役割を学習するときに、タイミングよく、磯部郷土資料館が「先人に学ぶ地震と大津波展」を行っており、東北の被害の様子もパネルで展示されていました。そこで、消防署の役割を入り口にして、防災についても学ぶことにしました。子どもたちは、資料館の展示を見ることで、浜島も150年前に大津波の被害にあっているということを知りました。古文書から、南張の庄屋市兵衛さんの行動を知り、市兵衛さんの思いを知ることで、自分たちのことにつなげることができてきました。古文書に出てくる地名や津波の高さから、等高線の入った地図に浸水域をいろ塗りしたところ、自分たちが歩いた道や友達の家にも津波がおしよせることがわかりました。防災マップの避難場所に、自分の名前を張っていくとき、子どもたちの目は真剣でした。

支援の必要な子どもにとって、いざというときに学習しておくことは、大切だと感じます。そのときに、まわりの友だちが本気であることが欠かせません。今年度、現地で避難訓練をやろうという計画がPTAを中心に上がっています。実現させたいです。



### 浜島小学校3年生及び4年生の学習内容（2011年度）

3年生は、大きく「校区たんけん」という単元で、1年間、校区に出かけるようにしている。

#### ・南張たんけん

川口農園（メロン栽培） 徳林寺 中島牧場 楠の宮 南張海岸

#### ・桧山路たんけん

ふるさと公園 谷口吉宏さん宅（防空壕） 江月寺 先長塚 桧山路川 桧山路生涯学習センター

#### ・迫子たんけん

岡野農園（イチゴ栽培） 迫塩小学校跡 八柱神社 迫子川飛び石 森岡さんののり養殖場  
旧迫塩小学校

- ・磯部たんけん（校区たんけん番外編）  
磯部郷土資料館 旭電器磯部工場
- ・浜島東たんけん（1）  
矢取島 浜島漁協魚市場 やまひ（魚屋） 弘法井戸 龍江寺
- ・浜島東たんけん（2）  
三重県栽培漁業センター 浜島生涯学習センター B&G海洋センター
- ・浜島東たんけん（3）  
浜島幼稚園 恵比須ヶ丘（鼻欠けえびす） 宇気比神社
- ・店たんけん（1）（2）  
サンパール ファミリーマート

#### 4年生

##### ・ゴミのしまつと活用

志摩市内では、旧5町のゴミ処理施設を利用しているので、市になってからも旧町のままのゴミ処理とリサイクルを行っている。浜島は、ゴミを燃やさず固形燃料化しているので、市内の中でも分別の仕方が特殊である。子どもたちは、浜島の分別の仕方と収集の仕方を学習し、RDF施設エコフレンドリー浜島を見学する。学習の始めに、各班に何種類かのゴミを混ぜたものを渡し、分別させると、分けることができない子どもたちであるが、浜島のゴミの分け方（エコフレンドリーでもらってくる）を書いたものを渡すと、分けることができる。そして、家にも同じものがあることに、ここで気づく。

この学習の後、ごみ収集車を見かけると手を振ったり、ゴミステーション（集積所）で出会うと挨拶する子どもが増える。また、エコフレンドリーでの分別の様子を見て、自分たちも分別することで、ゴミを資源にすることができると、分別を考えるようになる。合言葉は、混ぜたらゴミ、分けたら資源。

○ゴミの分別 ○家のゴミ調べ ○エコフレンドリーの見学 ○自分たちにできるリサイクル

##### ・命と健康を支える水道

学校の蛇口調べ、家で水の使い方を学習し、志摩市水道事務所磯部浄水場の見学をする。浄水場では、簡単な実験で、水をきれいにするしくみを教えてくれる。

志摩は、かつて水不足になることが多かった。各地に残る弘法井戸もそのことを物語っている。また、赤痢が流行したこともあり、水道を作ることは、住民の切実な願いであった。このことを、新聞記事を元に学習し、水源のダムを作るために尽力した人々のことを、内容（5）ウとして扱っている。

○水の使い方 ○水は何処から ○志摩市の水道 ○志摩水道がなかったころ

○ダムの工事・・地域の人々の願い ○渇水対策・・蓮ダムからの水 ○自分たちにできる節水

・警察の仕事については、教科書に沿って学習。

・消防署の仕事は、学校の消防設備調べをし、消防署を見学した。消防署の仕事として、火事の際の消火活動以外に、救急の仕事や防災の仕事、災害救助活動があることを知り、発展として、磯部郷土資料館で開催されていた「先人に学ぶ地震と大津波展」の見学をした。安政の地震と大津波については、古文書に南張の様子が残されていたので、そこから南張の庄屋市兵衛さんの行動についても学習した。さらに、PTAが作成してくれた防災マップを利用して、地震が起きたときの避難の仕方について学習した。